VMware Player と Windows とのファイルの受け渡し

- 1. 考え方
 - 一方の OS 側から FTP によるアクセス、あるいは Samba、rcp などホスト間のファイル授受の コマンドを利用する方法が一般的である。
 - ② VMwareの最近のバージョンからは、共有フォルダ機能が提供され、容易に OS 間のファイルの 受け渡しが可能となった。
- 2. Windows 側の作業

		x				
整理 ▼ 🛛 🍃 開く	ライブラリに追加 🔻 » 🔠 👻 🗍	0				
	▲ 名前 [▲]	*				
🌉 コンピューター	鷆 soft					
🚢 OS (C:)	🌗 Virtual Machines					
👝 DATA (D:)	🔒 VMShare					
SD/MMC (F:)		-				
	▼ <	•				

ファイルを共有するフォルダを用意する。

→D:ドライブの「TEMP」に「VMShare」を作る。

3.	VMware Player 側の作業
----	--------------------

仮想マシン設定	Second Seco	
ハードウェア オブション		
設定 ・ ・ いてつ ・ いてつ ・ 、 いてつ ・ 、 いてつ ・ いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 いた 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	概要 CentOSSeaDAS 無効化 デフォルト サポートされていません	 フォルダの共有 共有フォルダにより、仮想マシンプログラムがファイルにアクセス、できます。これによりコンピュータとデータが危険になる可能性があります。(言頼できる仮想マシンでデータが使う使うよう) ● 無効化(D) ● 第に有効(E) ● 次回のパワーオフまたはサスペンドまで有効(U) フォルダ(F) 名前 ホストパス 道加(A) 削除(R) プロパティ(P)
		OK キャンセル ヘルブ

 ① 共有フォ ルダの設定
 VMware Player の 「仮想マシン」→ 「仮想マシン設定」
 を選択する。さらに、
 「オプション」から、
 「共有フォルダ」を
 選択し、危険を承知の上で、フォルダの
 共有から「常に有効」
 を選択する。 ② フォルダの追加



「ホストパス」として、

仮想マシン設定 ハードウェア オブション 設定

🔜 全般

▶ パワー 共有フォルダ WMware Tools □ ユニティ

「D:¥TEMP¥VMShare」を「参照」 アイコンを利用して設定する。

次に、共有フォルダの属性として、「共 有する」を選択する。

概要

デフォルト

CentOSSeaDAS

サポートされていません

前項の共有フォルダのウインドウから「追加」をクリックす
ると、左のように共有フォルダ追加ウイザードのウインドウ
が表示される。

	共有フォルダ追加ウィザード	x
	共有フォルダ名の指定 この共有フォルダに名前を付けてくださ	5(1)o
<a><a><a><a><a><a><a><a><a><a><a><a><a><	D:¥TEMP¥VMShare	e 参照 (R)
	と (A) VMShare	
re」を「参照」		
5.		
0		
		< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル
生として、「共	 共有フォルダ追加ウィザード	
	共有フォルダ属性の指定 この共有フォルダの属性を指定してくた	<u> </u>
	☑ 共有する (E)	
	🔲 読取り専用 (R)	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		_
<u>・</u> 共有 でき	ョフォルダにより、仮想マシン ブログラムがファイルにアクセス ます。これによりコンピュータとデータが危険になる可能性	
があ のみ	ります。信頼できる仮想マシンでデータが使用する場合 、共有フォルダを有効にしてください。	戻る(B) 完了 キャンセル
•	無効化 (D) 特に有効 (E)	
0;	欠回のパワーオフまたはサスペンドまで有効(U)	
フォルダ (F)		仮想マシン設定ウインド
	Share C:¥VMShare ☑	に共有フォルダが表示される
		VMware Player では、
		/mnt/hgfs/VMShare
		として認識される。
	追加 (A)	
L		

OK キャンセル ヘルプ